

資料

大学生を対象とした水泳実習の安全対策について

池上晶子¹⁾ 矢野博己²⁾ 星島葉子³⁾ 長尾光城⁴⁾ 木村一彦⁵⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科¹⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科²⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科³⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科⁴⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科⁵⁾

1999-11-10 00:00:00+09受理

Safety Procedures for College Students Swimming in The Open Sea

Akiko IKEGAMI¹⁾, Hiromi YANO²⁾, Yoko HOSHIJIMA³⁾, Mitsushiro
NAGAO⁴⁾ and Kazuhiko KIMURA⁵⁾

*Department of Health and Sports Sciences Faculty of Medical Professions Kurashiki, 701-0193,
Japan¹⁾*

*Department of Health and Sports Sciences Faculty of Medical Professions Kurashiki, 701-0193,
Japan²⁾*

*Department of Health and Sports Sciences Faculty of Medical Professions Kurashiki, 701-0193,
Japan³⁾*

*Department of Health and Sports Sciences Faculty of Medical Professions Kurashiki, 701-0193,
Japan⁴⁾*

*Department of Health and Sports Sciences Faculty of Medical Professions Kurashiki, 701-0193,
Japan⁵⁾*

(Accepted 1999-11-10 00:00:00+09)

Key words:fatigue, swimming performance, vo₂max, life-saving, physical fitness

要約

本研究の目的は、K大学の水泳実習における安全対策の実施状況を把握することと、能力別グループ編成の妥当性について検討することであった。安全対策として、スタッフ編成や実習前の健康チェックは整備されているものの、実習時の救命救急体制、個々人の健康状態の変化に対する対応についてはさらに検討する必要があることが認められた。また、グループ編成の妥当性については、全身持久力と水泳技能のどちらが実習中の疲労感に関係するのかを検討した結果、水泳実習中の疲労感は水泳技能と相関関係が見られたが、最大酸素摂取量とは相関関係が見られなかった。したがって、安全な水泳実習のグループ編成には、体力レベルによる班編成よりも水泳技能別がより妥当ではないかと考えられた。
